

「旬」の植物紹介（9月編）

クズ *Pueraria lobata* (Willd.) Ohwi ([マメ科](#) [クズ属](#))

降る雨の温度が秋の涼しさを感じさせる季節になった。秋といえば「秋の七草」。人に教えてもらった覚えかたに『ハスキーなおふく』がある。ハギ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、クズである。今回は、7番目に控えし「クズ」を紹介したいと思う。

秋の花としているが、実は時期すでに花としては終わりに近くなっている。花は暗紫色をしており、あまり目立たない存在だが、少々甘い良い香りがする。

名前の由来は「古事記」に、吉野の国櫨（くず）人の記載があり、朝廷にクズ粉を作って献上していたらしいことから、「国櫨」が「国栖（くず）の葛」→「国栖葛」→「国栖」→最終的に「葛」の字を当てたとされる。

林業を営む者にとっては、要注意植物である。伐採して光が地上に降り注ぐようになると、残っていた株やら、埋土種子からあつという間にはびこって、折角植栽した苗木を覆い尽くし、植栽をやり直すはめになるほどである。一度繁茂すると駆除には骨が折れる代物だ。

秋の七草のうち食に供されるのはこの「クズ」だけだが、クズ粉以外にも春の山菜としての利用もある。まだ柔らかい新芽は、そのまま茹でたものは表面にある毛が物を言い、モサモサして食べたもんじゃない。これを薄い衣をつけて天ぷらにすると、表面の毛も気にならなくなり「まさにマメ」であり、ビールが進む君間違いない。

もう一つの楽しみ方、冬になると葉っぱが落ちて、葉っぱとかずらが繋がっていた部分に模様が出来る。葉痕（ようこん）と呼ぶのだが、この葉痕の形が「ナマケモノ」の顔に見えるというのだ。あえて違う植物のものを紹介するが、冬枯れの中にクズを発見したら、ナマケモノを探して見て欲しい。



引用：岡山理科大学「植物雑学辞典」
野草の名前「夏」 山と溪谷社
冬芽・葉痕図鑑